

## 軽金属クラブ会員総会

## 18年に設立50周年

## アルミ業界での経験伝承を確認

アルミニウム業界で活躍したOBと現役メンバーとの交流を目的とした「軽金属クラブ」が2017年10月25日に世界貿易センタービル（東京都港区）の東京会館で会員総会と懇親会を開催した。総会では、来年にクラブ設立50周年の節目を迎える中、業界の発展に尽くしてきた人たちの知見と経験を現在の世代に引き継ぐことの必要性を確認した。

会員総会では、まず佐藤薫郷・軽金属クラブ会長（日本軽金属㈱元代表取締役社長）があいさつ。佐藤会長は、「アルミニウム業界は基本的にこの50年間順調に業績を伸ばしてきた」と振り返った。その上で「知見や経験は歴史的遺産であるにもかかわらず、形として表に出てきていないのではないかと指摘。将来の業界の発展に寄与するため、OBと現役との交流を深めるほか、積極的に自らの経験を会報への寄稿などの形で披露してほしいと述べ、協力を呼びかけた。

会計報告が行われた後、(一社)日本アルミニウム協会がアルミ圧延品の出荷状況など現況を報告。表面処理などを手掛ける事業者で作る(一社)軽金属製品協会は、協



アルミニウム産業の夜明け  
講談師・室井琴柑さんが「アルミニウムの夜明け」を講談

会内に設ける各部会の活動状況を紹介した。

また、今回は講談師の室井琴柑（きんかん）さんが「アルミニウム産業の夜明け」と題した講談を披露。1900年に大阪で高木鶴松、1902年に那須鐵之助が東京でそれぞれアルミニウム加工業を始めたという業界の黎明期のストーリーを披露し、大きな拍手が送られた。

総会後の懇親会では、日本アルミニウム協会の岡本一郎副会長があいさつ。岡本副会長は、「自動車のアルミ化やスマートフォン向けなど用途が広がっているにもかかわらず、アルミ全体の需要量は大きく増えていない」と吐露。中国で最新設備の導入に伴う増産の動きが活発になっていることを念頭に、「日本メーカーは新たな用途の開拓と品質で勝負をかけていかなければいけない」と語った上で、過去のオイルショックやリーマンショックを乗り越えた業界OBに向け、現役への助言を求めた。